



広島・長崎被爆72年 被爆者の悲願を実現する政府に 核兵器禁止から廃絶へ さらに歴史を前へ！！



8月6日原水禁世界大会に参加。原爆ドーム前の節木県議

72年前の8月6日に広島、9日に長崎に人類史上初めて原子爆弾が投下されました。爆発による強烈な熱線、人体を貫く放射能は、一瞬でまちを壊滅させ、多くの命を奪いました。

今年はこの「悪魔の兵器」を初めて違法とする「核兵器禁止条約」が国連会議で採択された歴史的な動きのなかで迎えました。

6日、広島市の平和記念式典に参加した広島市長をはじめ、知事、国連事務総長代理などすべての方々は、あいさつの中で、核兵器禁止条約に言及して核兵器廃絶への決意を語られました。ところが、安倍首相はただ1人、この条約に一切触れませんでした。唯一の戦争被爆国である日本の政府が、この歴史的な条約に背をむけていることは許しがたいことです。日本政府はこのような姿勢を改め、核兵器禁止条約への参加を検討することを強く求めるものです。

原水爆禁止 2017 年世界大会ヒロシマデー集会では、日本共産党の志位委員長が「日本国民の手で、核兵器廃絶を求める世界の主流の先頭に立つ政府をつくろう」と呼びかけました。さらにこのうねりを広げていくために核兵器廃絶を求める「ヒバクシャ国際署名」を大きくひろげ、核兵器にしがみつ়く勢力を包囲しましょう。ふしき県議も、原水爆禁止世界大会に参加しました。

原爆によって亡くなられた方、残されたご家族の皆さん、今日まで懸命に生きてこられた被爆者のみなさんに思いをはせながら、6日広島で過ごしました。平和公園は、慰霊碑に手をあわせる多くの方々に祈りにつつまれていました。広島平和記念資料館では、原爆投下後の写真や絵を見て、その惨状に改めて怒りがこみ上げてきました。人としての姿さえとどめることを許さなかった残虐な核兵器。1日も早く完全に廃絶しなければなりません。（ふしき）

施設整備など
600億円もの税金が

みちよの
かけ歩き(記)

県民負担となる巨額の国体施設整備は削減を 既存施設の活用でコンパクトな「滋賀国体」に

2024年滋賀県で開催予定の国民体育大会に向けて、主会場となる陸上競技場（彦根市）、体育館（大津市）などの建設を中心に600億円もの経費が見込まれています。

現在の津市におの浜の県立体育館を、交通アクセスの悪い瀬田地域の滋賀医科大学前に新たに建設の予定です。プロバスケットチーム「レイクス」もこの場所では5000人の集客は見込めないとして見切りをつけています。

また谷底地形のため造成費だけでも12億円。総額では94億円です。しかも、今後、下水道整備、山林に新たなアクセス道路をつくる予定で、大津市の負担も増えます。

県が示した今後10年間の財政収支見通しでは、2018年以降は毎年150億円前後の赤字が生じるとしています。巨額の施設整備で県民につけをまわすことは認められません。

明るい滋賀県政をつくる会は「施設の新設ありき」ではなく、既存の施設を活用するなど、コンパクトな「滋賀国体」をと「県民負担となる巨額の国体施設整備の削減を求める要請署名」に取り組んでいます。ぜひご協力ください。（ふしき）



日本共産党大津市議団と新県立体育館建設予定地を視察する

生活相談会をおこなっています。

毎月 第1.3月曜日 午後3～5時まで

場所：ふしきみちよ事務所 無料・秘密厳守

2017年8月22日 発行：ふしきみちよ事務所
大津市末広町4の4 Tel・Fax 077-523-0334
メール mfushiki@beach.ocn.ne.jp ふしきみちよ公式ホームページ <http://fusiki.huu.cc/>

ふしき みちよ

検索